

新西町内会広報

発行責任者
小関 日出男

平成30年度定期総会開催模様

みぞれの降る中、41名出席

新西町内会定期総会が4月8日、新西会館において開催された。みぞれの降る悪条件の日であったが、41名の出席、委任状提出は169名、計210名での総会であった。(正会員233名、準会員45名)

冒頭で昨年度亡くなられた12名の方々に黙祷を捧げた。

岡本会長から「当町内会も会員が減ってきている。諸行事において若い人の集まりも参加も少ない。役員のなり手も少ないが、若い人と一緒にみんなの協力を得て運営していきたい」との挨拶【写真】があった。



◆事業報告あらまし

議事に入り、まず川原総務部長から町内会一年間の活動に関して事業報告があり、続いて小野寺副会長から「住民意識アンケート調査を踏まえ市の『チャレンジ事業』に応募し、災害時の避難困難者のため自主防災組織(しんせいレンジャー)を起ち上げ防災の強化を図ることができた」との報告があった。

また、川滝経理部長から決算報告があり、「会費は百万円の大台を割った。雑収入の20万円が増えたのは、チャレンジ事業の補助金分。融雪槽



◆今年もLED街灯は10灯

議案審議に移り、30年度事業計画が提案され、その中で従来の敬老会表彰に合わせ、落語の会を行っていたが、新年度は別のことを検討しているなどと説明があった。

予算案については、LED工事に30万円10灯を計上している。予算措置として不足分を特別会計(資源回収)から20万円を一般会計に繰り入れていると説明があった。

また、規約等の改正の趣旨説明、役員の改選(案)が提案され、特に質疑がなく承認された。

閉会に当たり、

会長から新班長さんに「会員になっていない人には、せめて準会員になるよう働きかけてほしい」との要請があり終了。

今年度は「新西町内会事業計画」が全戸に配布され、実施事業の周知がされている。どれか一つには参加してほしいものである。(小関)

◆町内清掃に40人が参加

好天に恵まれた22日、9時を合図に春季町内清掃が開始された。

大雪で木の折れ枝などが集中していた旭西第一公園には町内の精鋭が集結。開始前から作業していたこともあり、9時に速くも終了していた。

あちこちから集まったごみ袋の数は、第一公園が6袋、6条西6ステーションが3袋、5条西5の花壇【写真】では不燃ごみを含め8袋もの成果があった。

9時30分頃には参加者が会館に集まりだし、お茶を一服し随時解散した。

当日都合がつかず前日に付近のごみを回収した人もいた。お茶飲みした人は20人ほどであったが、参加された人は昨年の倍ほどの約40人。皆様たいへんご苦労様でした。

◆新西会館の補修

清掃が行われた当日、会館の裏に一人で黙々と働いている人がいた。老朽化した会館は、外壁の随所にひび割れが発生し、また、玄関ポーチもタイルが破損し修繕しなければならぬ状況だった。

さて、その方は岩田さん。お陰で外注せずに済みました。ありがとうございます。(川原)



会館ひび割れの補修後の一例です。

編集後記

桜の季節到来を知らせる便りが慌ただしく駆けめぐった。春の遅いこの地でもこの号が出る頃には桜真っ盛りだろうか▼真新しいランドセルを背負った新一年生も学校に慣れた時期だろうか。町内会の子どもみこしや新町っ子もちつき大会にも参加してもらいたい。当町内に新入生は何名いるのだろうか▼そもそも小学生が何名いるのかも知らないし、知らされない「個人情報」の秘匿で、それで子ども向けの事業をする皮肉▼育児放棄・虐待、うるさいと逆ギレする老人、自転車の当て逃げ、幼稚園建設に反対する地域、除夜の鐘さえ突かせない人たち、昭和には見聞きしなかったこと：数え上げればきりが無い▼不寛容な社会、貧困の連鎖、自分ファースト、富める者と貧しい者しかいない格差社会、そして聞かれなくなった「中流」という言葉▼新一年生が巣立つ頃にはどんな社会になっているのか、町内会がどう変貌しているのか、シリーズに考えながら編集した次第。(小関)